

Title	アート・イベントのドキュメンテーション：イベントレコードの共有化に向けて
Sub Title	Documentation of art events : open event data for future collaboration
Author	本間, 友(Honma, Yu)
Publisher	慶應義塾大学アート・センター
Publication year	2017
Jtitle	慶應義塾大学アートセンター年報/研究紀要 (Annual report/Bulletin : Keio University Art Center). Vol.24(2016/17), ,p.143- 150
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	研究紀要
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA11236660-00000024-0143

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

アート・イベントのドキュメンテーション： イベントレコードの共有化に向けて

本間 友

所員、講師（非常勤）

慶應義塾大学アート・センターは2012年から2015年にかけて、文化庁「メディア芸術デジタルアーカイブ事業」に参加し、メディアアート分野におけるデジタルアーカイブの構築に関する理論的検討、アーカイブモデルの構築、メタデータの作成に取り組んだ。本論では、メディア芸術デジタルアーカイブ事業での検討を踏まえ、アート・ドキュメンテーションにおけるイベントデータの役割について論じる。ついで、アート・センターにて、2016年度、筆者を中心に再定義作業を行ったイベントデータモデルについて解説を行い、イベントデータの共有化の必要性に言及したい。

1. アート・ドキュメンテーションにおけるイベントデータの役割：メディアアートと上演芸術

メディア芸術デジタルアーカイブ事業において、アート・センターが参画したメディアアート分野では、デジタルアーカイブの対象をどう設定するのか、という検討からプロジェクトが始まった。というのも、同事業が扱うマンガ、アニメ、ゲームといった領域の作品・資料とは異なり、メディアアートにおいては、作品が物理的な形を残していない場合が多いからである。

アート・センターのプロジェクト（通称 ARCMA プロジェクト）で重ねられた議論の詳細は、アート・センター年報および報告書「ARCMA Report」にまとめられているため、ここで改めて紹介しないが、ARCMA プロジェクトの検討を通じて、メディアアートのデジタルアーカイブ構築にあたっては、作品の物理的な構成要素だけではなく、作品が提示された時と場所、すなわちイベントのドキュメンテーションを作成する必要があることがあらためて確認された*1。

メディアアートのドキュメンテーション

メディアアート作品の一つの特徴に、表現が永続的な形態を持たないことがある。たった一度だけ展示される作品もあれば、会場の性質や設備などの作品設置条件の変化に応じて、作品自体を変化させながら再展示が行われる作品もある。このような対象のドキュメンテーションを行う場合、形式や素材といった作品の物理的な構成要素（Objects）を記述するのみでは不十分であり、作品が展示・受容された状況、そしてその状況を作り出したイベント（Events）を記述し、両者を組み合わせることによって、作品の姿を呈示する必要がある。

前者（Objects）のドキュメンテーションを作成するためのデータモデルは、美術館や博物館で培われてきた作品・資料

ドキュメンテーションのモデルから大きく変わるところはない。そのため、ARCMA プロジェクトでは主に、イベント記述のためのデータモデルに関して情報収集と調査をすすめた。

上演芸術のドキュメンテーション

メディアアートのドキュメンテーションに関わる検討の過程で改めて理解されたのは、メディアアート作品のもつ情報構造が上演芸術の情報構造に非常に近い、ということである。アート・センターでは、1998年の土方巽アーカイヴの設立時より、上演芸術のドキュメンテーションについて長く検討を行ってきた。上演芸術においては、ベギー・フェランを引用するまでもなく^{*2}、作品は上演されたその時にしか存在しない。それゆえ、様々な媒体による作品の「写し」を用いて研究を進める上演芸術研究においては、「作品を記録すること」「記録資料を利用すること」が常に本質的な問題として存在し、ドキュメンテーションの問題が長く議論されてきたことは周知の通りである。

ダンス作品である土方作品は、当然のことながらその成立に時間と場所が深く結びついている。加えて、作品の成立に直接的・間接的に関わる人物が非常に多いという特徴をもつ。そのため土方巽アーカイヴでは、土方巽の公演やその他の活動（イベント）の記述を一方の軸に、アーカイヴ資料（写真、視聴覚資料、文書、オーラルヒストリー等）の記述をもう一つの軸とし、イベントのドキュメンテーションとモノのドキュメンテーションを組み合わせることによって、土方巽の芸術のありようを浮かび上がらせようとしてきた。

土方巽アーカイヴでのこれらの実践を下敷きとし、ARCMA プロジェクトにおける成果を取り込んで実施されたのが、2016年度のイベントデータモデル再定義作業である。

2. 慶應義塾大学アート・センターのイベントデータモデル (KUAC Core Elements - Event Set)

イベントデータモデルの再定義にあたっては、まず、ARCMA プロジェクトでの研究を延伸する形で、イベントデータモデルを巡る国内外の動向について調査を行った。

標準的なデータモデルを持たないメディアアートおよび上演芸術においても、また CDWA、SPECTRUM、CIDOC CRM などの代表的なモデルをもつ美術館・博物館においても、イベントの情報は、サブセットとして定義されているが、イベントデータのための独立したデータモデルは確認できない^{*3}。

既存のデータモデルの中で、イベント情報はシンプルな構造のもとに定義されている。一方で、ARCMA プロジェクトが提案したモデルは、メディアアート作品の構造に関する芸術学的な考察をも含みこんだ、研究的かつ複雑なモデルである。そのため、イベントデータモデルを再定義するにあたっては、実際の利用と将来のデータの交換可能性を高めるために、ARCMA データモデルの大幅な項目整理を実施し、慶應義塾大学アート・センター基本要素 (KUAC Core Elements) のイベントセットとして定義を行った【表 1】。

イベントセットの 17 項目のうち、「使用資料 (Object Used)」および「参加状況 (Participant)」のほかは、オブジェクトセットと共通の項目とし、資料とイベントの横断的な検索を実現するとともに、データ作成作業の効率化を図っている。

「エレメント」「プロパティ」の用語や構造については、今後整理や定義の見直しが必要であるが、現行案を基本的な設計として、これまでアート・センターで蓄積してきたイベントデータの移行を進めている。

アート・センターで作成、運用している主要なイベントデータとしては、土方巽 (アスベスト館) 活動年譜 (1928-2003)、土方巽公演・作品リスト (1950-1986)、草月アートセンターイベントリスト (1958-1971)、慶應義塾大学アート・センター催事・展覧会リスト (1996-)、メディアアート関連イベントリストがある。メディアアート関連イベントリストは、1950年代から 1980年代にかけてのメディアアートに関連する重要な運動について、主要なイベントを調査し作成したリストで、現在は Video Information Center、大阪万国博覧会 (主要会場)、実験工房、スタジオ 200 のデータが蓄積されている。またその他にも、ARCMA プロジェクトが中心となって作成した作家単位の細かなデータや、画廊で開催された展覧会に関するデータが存在する。これらのデータは、調査・作成時期によって異なる方法で作成されていることから、今後検証を行い、移行作業を随時進める予定である。

イベントと資料の連結

アート・センターのデータモデルでは、イベントと資料の結びつきを「資料-イベントコンテキスト」「使用資料」の 2 項目によって示している。

「資料-イベントコンテキスト」では、資料の側から、その資料の成立に関わるイベントが登録される。イベントが資料のコンテキストとして登録されることはすなわち、当該イ

【表1】 慶應義塾大学アート・センター 基本要素 (KUAC Core Elements) イベントセット/オブジェクトセット

慶應義塾大学アート・センター 基本要素 (KUAC Core Elements) イベントセット

エレメント	セット内での名称	エレメントセット・プロパティセット
Code	イベントコード	Code Properties
Type	イベントの種類	
Unit of Description	記述単位	
Component/Part	部分に関する記述	
Classification	区分	Classification Properties
Title	タイトル	Title Properties
Agent (Related Individuals and Organization)	関係者	Agent Element Set
Date	日付	Date Properties
Location	場所	Location Element Set
Description	内容説明	
Subject	主題	Subject Properties
Objects Used	使用資料	
Related Records	関連するイベント	
Context	資料 - イベントコンテキスト	
Participant	参加状況	
Source and Reference	参照元	
Description Control	記述管理	Description Properties

慶應義塾大学アート・センター 基本要素 (KUAC Core Elements) オブジェクトセット

エレメント	セット内での名称	エレメントセット・プロパティセット
Code	階層コード, 資料コード	Code Properties
Type	記述対象の種類	
Unit of Description	記述単位	
Components/Parts	部分に関する記述	
Classification	区分	Classification Properties
Title	タイトル	Title Properties
Agent	関係者	Agent Properties
Date	日付	Date Properties
Location	場所	Location Properties
Description	内容説明	
Subject	主題	Subject Properties
Related Records	関係する資料	
Context	資料 - イベントコンテキスト	
Quantity	数量	
Material	材質	
Technique	技法	
Format	形状	
Physical Description	物理的特性	
Measurement	寸法	
Inscription/Mark	銘記/書込	
State/Edition	版/ステート	
Copyright Holder	権利保持者	Agent Properties
Period of Copyright	権利期間	
Access Conditions	閲覧・使用条件	
Source of Acquisition	入手先	
Type of Acquisition	受入の種類	
Provenance	来歴	
Date of Acquisition	受入日付	
Source and Reference	参照元	
Type of Holding	所蔵の種類	
Repository	所在	
Condition	状態	
Restoration Records	修復記録	Restoration Element Set
Description Control	記述管理	Description Properties

プロパティセット

プロパティ	名称
Code	コードプロパティセット
Type	種類
Value	値
Classification	区分プロパティセット
Value	値
Type	種類
Technical Vocabulary	語彙
Subject	主題プロパティセット
Value	値
Type	種類
Language	言語
Title	タイトルプロパティセット
Value	値
Type	種類
Role	役割
Language	言語
Date	日付プロパティセット
Date	日付
Start Date	日付 (開始)
End Date	日付 (終了)
Type	種類
Role	役割
Language	言語
Description	記述管理プロパティセット
Registrar	登録者
Editor	変更者
Date of Registration	登録日
Date of Edit	変更日
Access Setting	公開設定
Notes	特記事項

イベントが、連結された資料の同一性の根拠となっていることを示している*⁴。イベントと資料がどのような関係性によって連結されているかは、あらかじめ定義された用語によって記述される【表2】*⁵。

一方、「使用資料」の項目では、資料が、同一性を維持したままイベントにおいて使用されている場合に、イベントの側から資料を登録する*⁶。展示、上映といった使用の形態は、Getty研究所の Art & Architecture Thesaurus *⁷を参照し、語彙として蓄積している。

ここで注意しておきたいのは、すでに存在する資料がイベントで使用された場合でも、資料に変化が加わる場合は扱いがことなることである。すなわち、資料の形状や意味内容が、あるイベントで使用されたことによって変化した場合、「使用資料」ではなく「資料-イベントコンテキスト」での記述を行う。資料に変化が加わっているか否かの判断は、資料体のジャンルによって基準が異なると予想されることから、一律に規定せず、新たな資料体に対する作業を始める際に、アーカイヴ担当研究員が、既存例を踏まえた検討を行い、決定する方法をとる。

【表2】 慶應義塾大学アート・センター 基本要素 (KUAC Core Elements)
Context Pre-defined Terms

Terms	Description
Is Generated By	General-default 資料を作成したイベント
Is Prepared For	Pre Event その準備のために、資料が作成されたイベント
Is Created For	During Event 資料が構成要素となっているイベント
Is Presented In	During Event 資料が提示されたイベント
Documents	During and Post Event 資料が記録しているイベント
Is Alternated By	資料に変更が加えられたイベント
Is Destroyed By	資料が破棄されたイベント
Analyses	Post Event 資料が分析しているイベント

イベントとイベントの連結

イベントデータモデルをめぐる、未解決の大きな課題が、複雑な構造をもつイベントの記述方法である。横浜トリエンナーレや越後妻有アートトリエンナーレのような芸術フェスティバルや、大阪万博に代表される、日付・場所・主催者を異にする多くのイベントが関係して成立する巨大イベントをどのように記述すればよいのか、という課題である。加えて、展覧会の巡回展やシリーズ化された公演など、フェスティバ

ル型以外にも、小規模ながら複合的な構造をもつイベントは多い。このようなイベントの相互関係、とりわけ包含関係を記述し、イベント全体の構造をデータとしてどう表現するのか、という課題は、イベントデータモデルに関する検討の最初期から認識されていたが、いまだに解決されていない。

国内外のデータモデルに組み込まれているイベント関連項目は、すでに述べたように、ごく単純な構造となっており、現在のところ、複数のイベントの並列的な関係、あるいは包含関係を記述できるモデルは確認できない。そのため、アート・センターでは、大規模なイベントの例として大阪万博を、小規模な例として草月アートセンターおよび土方巽の公演活動をとりあげ、ケース・スタディとして入力作業を行いながら、複合的なイベントの記述方法についての検討を続けている。

現在、アート・センターのモデルにおいて、イベント間の関係を示すための項目として設定されているのは、「記述単位」と「関連するイベント」の2項目である。

「記述単位」には、集合 (Set)、要素 (Element)、部分 (Component) の3種の単位を設定している。まず、日付と場所とタイトルが一意に決まるイベントを基本単位とし、要素 (Element) と規定する*⁸。つぎに、「要素」を含み、日付とタイトルが一意に決まるイベントを集合 (Set)、要素に含まれるイベントを部分 (Component) として設定する。

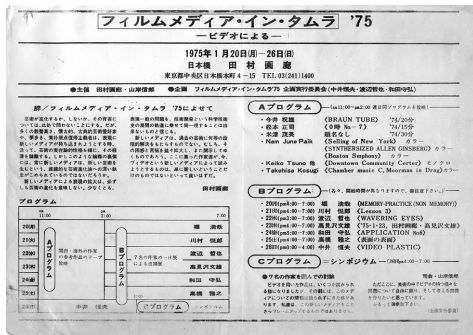
「関連するイベント」ではイベントデータ同士を連結し、関係性を記述する。関係性は、あらかじめ定義された用語によって記述される【表3】。

【表3】 慶應義塾大学アート・センター 基本要素 (KUAC Core Elements)
Relation Pre-defined Terms

Terms	Reciprocal	Description
Relates To	Relates To	資料と、別の資料が関係している
Is Component Of	Component is	資料が、別の資料の一部をなす
Is Based On	Is Basis For	資料が、別の資料に基づいて成立している
Partner In Set With	Partner In Set With	資料が、別の資料と一緒に呈示されるよう設計されている
Is Variation of	Has Variation	資料が、別の資料の変種である (色・版・寸法・記録形式の違いなど)。
Is Version Of	Has Version	資料が、別の資料の変種である (改訂版・翻案)
Is Format Of	Has Format	資料が、別の資料の変種である (記録形式の違い)
Is Referenced By	References	資料が、別の資料から参照されている

【図1】 イベントの入力例：フィルムメディア・イン・タムラ '75 -ビデオによる-

エレメント	セット内での名称	ELEMENT	COMPONENT	COMPONENT	COMPONENT
Code	イベントコード	GL-TMR-0005	GL-TMR-0005-001	GL-TMR-0005-002	GL-TMR-0005-003
Type	イベントの種類	上映会	上映会	上映会	上映会
Unit of Description	記述単位	Element	Component	Component	Component
Component/Part	部分に関する記述		A プログラム	B プログラム	C プログラム
Classification	区分				
Title	タイトル	フィルムメディア・イン・タムラ '75 -ビデオによる-	フィルムメディア・イン・タムラ '75 A プログラム	フィルムメディア・イン・タムラ '75 B プログラム	フィルムメディア・イン・タムラ '75 C プログラム
Agent	関係者	フィルムメディア・イン・タムラ '75 企画実行委員会 中井恒夫 渡辺哲也 和田守弘 今井祝雄 松本正司 米津茂英 Nam June Paik Keiko Tsuno Takehisa Kosugi 堀 浩哉 川村悦郎 高見沢文雄 中井 恒夫 山岸信郎	フィルムメディア・イン・タムラ '75 企画実行委員会 中井恒夫 渡辺哲也 和田守弘 今井祝雄 松本正司 米津茂英 Nam June Paik Keiko Tsuno Takehisa Kosugi	フィルムメディア・イン・タムラ '75 企画実行委員会 中井恒夫 渡辺哲也 和田守弘 堀 浩哉 川村悦郎 高見沢文雄 中井 恒夫	フィルムメディア・イン・タムラ '75 企画実行委員会 中井恒夫 渡辺哲也 和田守弘 山岸信郎
Date	日付	1975年1月20日(月) - 26日	1975年1月20日(月) - 26日	1975年1月20日(月) - 26日	1975年1月26日
Location	場所	田村画廊	田村画廊	田村画廊	田村画廊
Description	内容説明		A プログラム 11:00-14:00 今井祝雄《BRAUN TUBE》 松本正司《0時No.-7》 米津茂英 題名なし Nam June Paik《Selling of New York》 《SYNTHESISED ALLEN GINSBERG》 《Boston Smphony》 Keiko Tsuno 他《Downtown Community Certer》 Takehisa Kosugi《Chamber music C. Moorman in Drag》	B プログラム (省略)	C プログラム (省略)
Subject	主題	ビデオ・アート	ビデオ・アート	ビデオ・アート	ビデオ・アート
Objects Used	使用資料				
Related Records	関連するイベント				
Context	資料 - イベントコンテキスト	フライヤー (生成)			
Participant	参加状況				
Source and Reference	参照元				
Description Control	記述管理	登録者：本間	登録者：本間	登録者：本間	登録者：本間



フィルムメディア・イン・タムラ '75 のフライヤー

この2つの項目に加え、補助的に使用されるのが、タイトルプロパティセットの中の「グループタイトル」*9と、「部分に関する記述」エレメントである。「グループタイトル」では、複数のイベントに共通するタイトルを記述する。明確な終了日を持たない、イベントのシリーズ名などがこの項目に記述されるだろう。また、「部分に関する記述」は、イベント集合の中での要素の位置づけ（第1夜、第1回）などを特に記述する必要がある場合に使うことを想定している。

これらの項目を組み合わせ、試行的に入力しているデータの一例を【図1】に示した。複合的な構造をもつイベントの記述に関しては、まだ十分な検討が行えていないが、展覧会、公演、学術集会など様々な領域に渡るイベントに対して、統一的な基準を作るのは困難と考えられる。それゆえ、作業対象となるイベント群に対して、イベントの粒度の設定（「記述単位」を設定して、個別のレコードとする際の基準）、「部分に関する記述」の必要性などについて、性質やイベントの規模を踏まえた議論を行い、その議論の結果を積み重ねていくことが必要であろう。

3. イベントデータの共有化にむけて

データモデルを構築する一方で、アート・センターでは、戦後日本の前衛芸術に関連するイベントデータの調査および収集に取り組んでいる。その過程で浮かんできたのが、アート・センターで作成しているようなイベントデータのセットは、すでに世の中に存在しているのではないか、という疑問である。

展覧会や公演などのアート・イベントに関するデータは、国内外の様々な組織によって編纂、蓄積されている。近現代美術の領域で例を挙げれば、東京文化財研究所は、「美術展覧会開催情報」データベースにおいて、1935年以降に日本国内の美術館・画廊で開催された近現代美術関係の展覧会情報を公開している。また、国立新美術館のデータベース「art commons」は、美術館の主催で実施された1995年から現在までの展覧会の情報を収録している*10。これらの機関での取り組みは、国内の展覧会を幅広く対象とし、また公開を行っている例であるが、美術館・博物館や劇場などの文化施設では、多くの場合、自館で主催したイベントのデータを広報や紀要の編集等のために蓄積しており、その一部はウェブサイトで公開されている*11。

しかし現在、これらのイベントデータを相互的に接続する仕組みはなく、相互的な利用はなされていない。一方で、これらのアート・イベントの情報を参照し、利用するのはイベ

ントの主催者だけではなく、一つのイベントデータは様々な場面で活用される。例えば展覧会の情報は、作品・資料のドキュメンテーション、作家の略歴を作成する際に必要とされるほか、観光客に対する情報提供、地域の歴史の編纂などにも用いられる。イベントデータは、文化芸術に関わる活動を、より広い社会的文脈に連結する性格を持っているのである。

イベントデータとオープンデータ

国外、とりわけヨーロッパとアメリカにおいては、イベントデータは、オープンデータとしての公開・共有が進んでいる。オープンデータのポータルサイトで検索を行うならば*12、地域の美術館・博物館の展覧会や、芸術系イベントを広く取り扱ったデータセットを見いだすことができる。国内では、文化や学術関連領域においては同様の試みはまだ見られないが、地方自治体などの公的機関による活動に興味深い例がある。

オープンデータによるイベントデータ活用の代表的な事例の一つとしては、まず、ヨコハマ・アート・LODが挙げられるだろう*13。ヨコハマ・アート・LODは、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団が2009年から進めている、横浜の芸術文化情報のオープンデータ整備プロジェクトで、イベント、場所、作家、作品（所蔵品）の4種類のデータをオープンデータとして公開している*14。イベントデータは、同財団が運営するアート・イベント情報ポータルサイト「ヨコハマ・アートナビ」に掲載されたイベントと、市民ギャラリーを会場としたイベントの情報からなる。一方作品情報は、大佛次郎記念館、横浜美術館の所蔵品目録データによって構成され、これらのデータに関連する作家や場所の情報があわせて公開されている。

また、オープンデータに関する意欲的な取り組みで知られる福井県においては、「おでかけふくい」として、公的機関が主催する県内のイベント情報をオープンデータで公開している*15。

その他の取り組みに目をむければ、一般社団法人オープン&ビッグデータ活用・地方創生推進機構の検討部会においても、イベントデータの共有化について議論が行われている*16。また、経済産業省と独立行政法人情報処理推進機構が運営するIMI情報共有基盤では、イベント記述に関わるデータ項目の定義や、既存のデータとのマッピングなどが検討されているほか*17、文化庁は、2020年のオリンピックを念頭において、オリンピック関連の文化芸術イベントの情報を集約する文化情報プラットフォームの運用を行ってい

る^{*18}。

オープンデータ化などを通じた情報の共有化は、すでに別の組織で作られているデータを再度作るという状況を防ぐだけでなく、イベントに紐付いた作品や資料の情報をより広く社会に開いていく役割を果たす。このような情報共有の取組みに、大学をはじめとする研究機関が参加することができれば、大学で行われている研究活動の成果を、論文や書籍の発刊、口頭発表といった従来の手段とは別の方法で、社会に伝えていくことが可能だろう。

イベントデータに関する検討はその緒についたばかりだが、本論で紹介した先行例を参照しながら、2016年度に再定義したイベントデータモデルを元に、まず、活動のフレームを同じくする大学博物館や美術館等との議論を始め、イベントデータの共有化について、さらに検討を進めていきたい。

註

- * 1 『慶應義塾大学アート・センター 年報 23』 pp. 48-50, 『慶應義塾大学アート・センター 年報 22』 pp. 47-49, 『慶應義塾大学アート・センター 年報 21』 pp. 40-43, 『慶應義塾大学アート・センター 年報 20』 p.39.
『ARCMA Report 2012』2013年3月31日、慶應義塾大学アート・センター, 『ARCMA Report 2013-2014』2015年3月31日、慶應義塾大学アート・センター
- * 2 “Performance's only life is in the present. Performance cannot be saved, recorded, documented, or otherwise participate in the circulation of representations of representations: once it does so, it becomes something other than performance. To the degree that performance attempts to enter the economy of reproduction it betrays and lessens the promise of its own ontology. Performance's being, like the ontology of subjectivity proposed here, becomes itself through disappearance.”
Phelan, Peggy. 1993. *Unmarked: The Politics of Performance*. Routledge.146.
- * 3 調査の対象としたデータモデルは、以下の通りである。自然科学系の博物館などにおける実践については、今回調査の対象としなかったため、今後継続して調査を行ってきたい。
メディアアート分野：Matters in Media Art, DOCAM, V2_美術館・博物館：CDWA, SPECTRUM, LIDO, CIDOC

CRM, Dublin Core, EDM

- * 4 あるイベントが、資料の同一性の根拠になっている状況としては、下記のような例が想定される。
展覧会のためにつくられた作品／展覧会のために再制作された作品／展覧会の宣伝のために作られた資料
イベントを準備するために作られた資料（ノートやファイル）／イベントを記録した資料（ビデオ・写真）
- * 5 これらの用語に加えて、自由記述項目において関係性をより具体的に記述する。自由記述において参照する用語集として、Getty研究所 AAT（注7参照）に準拠したリストを今後整備する予定である。
- * 6 あるイベントが、同一性を維持したままイベントにおいて使用されている状況としては、下記のような例が想定される。
イベントが展示した作品・資料／イベントが上映した作品・資料
- * 7 Getty Research Institute, Art & Architecture Thesaurus: <http://www.getty.edu/research/tools/vocabularies/aat/>
- * 8 タイトルは、主催者によって与えられたタイトル、場所は、類型が「施設名（建物名）」とする
- * 9 タイトルプロパティの中で、Role（役割）= Group Title の値を持つタイトル
- * 10 「日本の美術展覧会記録 1945-2005」も公開されていたが、2016年5月現在、システム保守のため、公開を休止している。
- * 11 網羅的な調査は実施していないが、美術館によっては、ウェブサイトの展覧会案内のセクションに「過去の展覧会」として、開館以来の展覧会情報が掲載されている場合がある。金沢 21 世紀美術館では、展覧会情報に加えて、館内で開催される種々のイベント、教育普及プログラム、また一般主催のイベントなどが網羅的に掲載されている。
https://www.kanazawa21.jp/exhibition_event.php
また、ニューヨーク近代美術館（Museum of Modern Art New York）は、展覧会のレコードを GitHub で公開している：<https://github.com/MuseumofModernArt/exhibitions>
- * 12 今回は、下記 2 ポータルサイトを参照した。
European Data Portal: <https://www.europeandataportal.eu/>
Open Data Network: <https://www.opendatanetwork.com/>
- * 13 ヨコハマ・アート・LOD: <http://yan.yafjp.org/loд>
ヨコハマ・アート・LOD について詳しくは、小林巖生「ヨコハマ・アート・LOD - 情報の共有の先に見た新しいエコシステムの姿 -」（<http://yokohama-sozokawai.jp/>

things/12001.html) 2015.09.25, 松村冬子. 「地域, 学術, 文化をつなぐ Linked Open Data の構築と活用」. 第 13 回 AI 若手の集い MYCOM2012. 2012 を参照

- * 14 ヨコハマ・アート・LOD の仕様 : <http://data.yafjp.org/reference.html>
- * 15 おでかけふくい : http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/toukei-jouhou/opendata/list_6.html
- * 16 一般社団法人オープン&ビッグデータ活用・地方創生推進機構 : <http://www.vled.or.jp/>
同機構の、利活用・普及委員会、データ運用検討分科会の第 4 回分科会 (2017-02-13) において、自治体、ソフトウェア開発会社、また後述する IMI 情報共有基盤から、イベントデータについての報告が行われている。
<http://www.vled.or.jp/committee/utilization/managementreview/>
- * 17 IMI 情報共有基盤 : <https://imi.go.jp/>
共通語彙基盤 : <https://imi.go.jp/pd/7706/index.html>
公開ドラフト PD7706 (イベントに関する語彙の検討) : <https://imi.go.jp/pd/7706/index.html>
- * 18 文化庁文化情報プラットフォーム : http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunka_gyosei/2020_bunkaprogram/bunkajoho_platform.html